

## 18. 子牛の商品性向上のための飼料給与体系の検討

東部振興局・1) 地域農業振興課  
○高倉航立・木村誠司・川ノ上実<sup>1)</sup>

### 【背景・目的】

東部振興局管内では、多頭飼育農家の子牛出荷成績が低迷しており、玖珠市場出荷時の発育成績は市場平均と比較して低い。

発育がよく商品性の高い子牛を生産するためには、生育適期に人工乳（スターター）を確実に摂取させ、第一胃の発達を促し、粗飼料や濃厚飼料の消化吸収能力を早期に高めることが重要である。しかし、多頭飼育農場によっては、個体毎のスターター摂取量を把握し、それに応じた離乳や育成飼料等への切替えを適切に行うことは難しい場合がある。

このような中、東部管内で多頭飼育を行っている A 農場では、スターター給与期間を延長することで、スターターを確実に摂取させる取組を昨年から行い、その結果、子牛の発育が改善した。

そこで、今回、その効果の詳細を調査するとともに、他農場へ普及可能か検討した。また、調査の中で当該農場の今後の課題も明らかにした。

### 【取組内容】

- ① 「スターター延長前（出生後3カ月齢まで給与）」と「スターター延長後（出生後5カ月齢まで給与）」の飼料給与体系を聞き取り、比較するとともに、各月齢におけるスターター摂取量を調査。
- ② 「スターター延長後」に飼育した異なる月齢の子牛について、体測（体高・胸囲・腹囲）を、6月、7月、9月の3回実施。
- ③ 「スターター延長前」に測定していた体測データと②を比較。

### 【活動の成果】

スターターの延長給与を行った子牛の発育は、延長前より改善した。また、「豊後牛子牛飼料給与体系」の発育目標と比較しても優れていた。特に5ヶ月齢までの発育は顕著であった。これは、スターターの延長給与を行ったことにより、子牛に十分な栄養を給与できたためであると示唆された。R3年1～7月の出荷時の日齢体重と価格は前年と比較して大きく向上した。また、飼料体系変更後の子牛の疾病（呼吸器・下痢等）の発症は、農場主が変化を実感するほど減少する傾向がみられた。

### 【残された課題・今後の活動】

以上の結果からスターターの給与期間の延長は子牛の発育改善への有効な手段と考えられる。また、今年度から畜産研究部において関連する研究を行っているので、当該研究結果も踏まえながら推進していく。さらに、当該給与体系が肥育に与える影響を調査するため出荷先での飼料採食状況や枝肉成績等について調査をしていきたい。

なお、当該 A 農場での今後の課題としては、5ヶ月齢以降の発育が伸び悩んだことである。飼料摂取量から充足率を算出したところ、不足している箇所があり、給与体系の見直し等を提案し、さらなる発育改善に向けて指導していく。